



ラーさん

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

傘

### 【Nコード】

N09020

### 【作者名】

ラーさん

### 【あらすじ】

雨に降られてしまった。しかし傘がない。

雨に降られてしまった。

天気予報を聴かなかったのは失敗だった。

今朝はあんなに晴れていたのに。

秋の空。

傘がない。

歩いて帰るのは難儀だった。

雨宿りをすることにした。

駅の構内にたたずむ。

雨はしとしと降り続けている。

帰宅する人。

天気予報を聴いていた、利口な彼らは傘を開いて駅を出る。

傘でいっぱい風景。

手持ち無沙汰。

雨音。

足音。

忍び寄る夜気。

濡れた空気。

雨の匂い。

ポケットに三百円があった。

駅の向かいに喫茶店がある。

喫茶店は暖かった。

少し濡れた肩を拭きながら、コーヒーを一杯頼む。

苦かった。

ガラスの向こうに雨が流れる。

そのまま数刻。

雨は止まなかった。

このまま降り続ければ、二度と帰れなくなるだろうに。

夜。

「もう閉店ですが」

ウェイトレス。

「そうですか」

カップの底にコーヒーの跡。

「実は傘がないのです」

呟き。

「そうなんですか」

奥に消えた。

「では、この傘をどうぞ。古い置き傘ですのでお構いなく」

白いビニール傘。

「またのご来店を」

傘を差して店を出た。

濡れる傘。

しばらく歩くと雨がやんだ。

月。

悪くない。

ゆっくりと傘を閉じた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0902o/>

---

傘

2010年10月10日00時51分発行